

# ローヤルターフ テクニカル セミナー 2011開催



満員の東京会場

## 猛暑の影響でさらに高まるニューイベントへの期待



007のインターシードの経過を解説する東広野GC副支配人兼スーパーインテント森宗正明氏



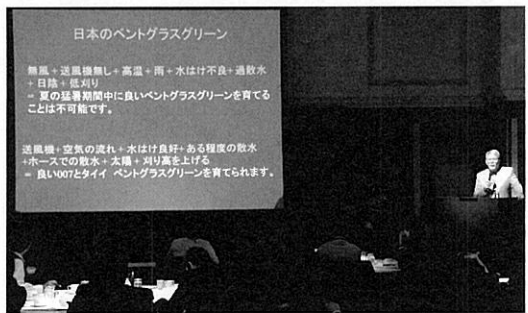
007を開発したリチャード・ハーレイ博士



マイカ・ウッズ博士は日本のターフメンテナンスの難しさはやはり夏期の最低気温が高い事を挙げた

(有)ローヤルターフカンパニーは1月12日、パークハイアット東京、14日にホテル日航福岡にて「ローヤルターフ テクニカルセミナー2011」を開催した。このセミナーは昨年、大阪と北陸で開催したセミナーが好評だったため、同じ講師を招聘し東京と福岡で行ったもの。

セミナーは、第一部でアジアターフグラスセンターのマイカ・ウッズ博士が「なぜ日本のターフメンテナンスがこれほど難しいのか」を、第二部では東広野GC(18H・兵庫)の副支配人兼スーパーインテントの



日本のベントグラスグリーン  
無風・逆風捕無し・高温・雨・水はけ不良・過乾水  
・日照・乾涸り  
・夏の猛暑期間中に良いベントグラスグリーンを育てることは不可能です。  
逆風捕、空気の流れ、水はけ良好・ある程度の乾水  
+ホースでの散水・太陽・刈り高を上げる  
良い007とタイペントグラスグリーンを育てられます。

福岡会場も盛況



森宗氏がコースから持ってきたサンプル。葉のきめ細やかさが印象的。2007年からのインターシードでペンクロス100%から、007が70%、ペンクロスが30%程度になっているという

森宗正明氏が007のインターシードの実例として、播種方法や、その後の経過を解説した。第三部はニューベントグラス「007(ダブルオーセブン)」開発者のラトガス大学リチャード・ハーレイ博士が「日本で優れたベントグラスグリーンを育てるには」を、007とTyeの導入事例を交えながら講演した。

参加者は東京168名、福岡も105名と盛況で、講師には質疑応答の他にも多くの質問が書面で寄せられ、昨年の猛暑で、ニューイベントへの関心が全国的にさらに高まっていることをあらためて実感させられた。



(有)ローヤルターフカンパニー半沢宏道社長はセミナーへの参加、と007のヒット、また会社創立10周年のお礼を述べた